

学位授与番号：乙 3250 号

氏 名：佐藤 峻

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 31 年 4 月 10 日

学位論文名：

Clinicopathological importance of anterior prostate cancer in Japanese Men.
(日本人男性における前立腺前方癌の臨床病理学的重要性について)

学位論文審査委員長：教授 猿田雅之

学位論文審査委員：教授 鈴木正章 教授 清田浩

論文要旨

氏名	佐藤 峻	指導教授名	池上 雅博
主論文			
Clinicopathological importance of anterior prostate cancer in Japanese Men (日本人男性における前立腺前方癌の臨床病理学的重要性について)			
Shun Sato, Hiroyuki Takahashi, Takahiro Kimura, Shin Egawa, Bungo Furusato, Masahiro Ikegami.			
Pathology international, 2017 ; 67, 156-162			
要旨			
<p>これまで、移行領域あるいは前方領域に発生する前立腺癌は比較的頻度が低く、臨床的に重要性の低いものとされてきた。しかしながら、我々が過去に報告したところでは、日本人症例においては移行領域癌の頻度が欧米での報告と比較して高く、日常診療においても多くの前方癌症例に遭遇する。今回の研究は、前方・移行領域癌の臨床病理学的特性を明らかにすることを目的として行われた。対象は根治的前立腺全摘術症例 201 例。症例は腫瘍の 2/3 以上が存在する領域に発生領域を割り当てるという定義のもとに、前方癌、後方癌に分類された。また、症例は腫瘍が優位に存在する領域により、移行領域癌もしくは辺縁領域癌に分類された。発生領域によりグリソンスコア、pT ステージを含む臨床病理学的特性に違いがあるかどうかを検索した。腫瘍の局在ごとの症例数は以下のとおりである；前方癌が 83 例 (41.3%)、後方癌が 73 例 (36.3%)；移行領域癌が 85 例 (42.3%)、辺縁領域癌が 115 例 (57.2%)。前方癌は後方癌と比較してグリソンスコアが低い傾向にあったものの (P=0.0258)、前方癌においてもグリソンスコア 8-10 の高悪性度症例が 15.7%含まれていた。また、前方癌では後方癌と比較して pT2+/EPEx の頻度が優位に高かった (22.9% vs. 4.1%)。pT ステージは後方癌で高い傾向にあった (P<0.0001)。移行領域癌と辺縁領域癌の比較においても概ね同様の傾向を示していた。今回の研究では、欧米諸国から報告されているよりも高い頻度の前方癌・移行領域癌症例が見られた。欧米諸国からの報告では前方癌・移行領域癌は組織学的悪性度、pT ステージが低いものとされているが、今回の研究では前方癌においても無視できない頻度の高悪性度症例が含まれていた。以上の点から、日本人前立腺癌においては欧米諸国の症例とは異なる生物学的特性、遺伝子的背景を有する可能性がある。本邦における前立腺癌の日常診療では、これらの点について十分に配慮したうえで診療にあたる必要があると考えられた。</p>			

学位論文審査結果の要旨

佐藤峻氏の学位審査論文は、日本語で「日本人男性における前方領域発生前立腺癌の臨床病理学的意義」と題し、病理学講座の池上雅博教授のご指導による研究で *Pathology International* に 2017 年 3 月に掲載されたものに基づきます。2017 年同誌の *impact factor* は 1.742 です。

本学位審査に際し、平成 31 年 3 月 28 日に、鈴木正章教授、清田浩教授ご臨席のもと、公開学位論文審査会を開催致しました。

まず佐藤峻氏によるプレゼンテーションが行われ、その後、口頭試問が行われました。席上、

- 1) 前立腺癌の発生に関して前方と後方を検討しているが、上方と下方では検討しているのか？
- 2) 後方発生のもので、脈管リンパ管侵襲が多いのはどうしてか？
- 3) 被膜浸潤の判断基準はどのようにしているのか？
- 4) 術後に関してその予後について検討はしているのか？
- 5) 針生検のスコアと全摘術のグリソンスコアに違いはあるのか？

などの多数の質問や指摘がありましたが、佐藤氏は何れに対しても、自身の実験データや文献による検討結果を交えながら的確に回答しました。

本論文は、日本人の前立腺癌の局在を調べたことで、欧米諸国とは異なる日本人特有の分布があること、さらに既報よりも前方癌・移行領域癌に高悪性度を有する症例が多く存在することを示し、実臨床に直結する重要な検討であることを示すものとなりました。この点を高く評価し、慎重審議の結果、学位論文として十分価値のあるものだと認めました。